全国コットンサミット実行委員会事務局　報告
2012 年 5 月 17 日

東北コットンプロジェクト　での種まきボランティア

2012 年 5 月 12 日（土）、2 度目となる宮城県名取市、仙台市での綿花の種まきのレポートである。昨年より大幅に栽培面積を増加させ、あわせて 5ha を超える規模となる。

名取市の（有）耕谷アグリサービス

ここでは、ポット栽培苗の定植である。新疆綿の種を約 1 か月育苗し、それを定植した。土壌表面には固化したごろごろ石のような土があり、それを掘ると 10 センチくらいで粘りのある粘土質となる。ポットから苗を抜き、根回りをよくするために川砂（バケツで配布、運搬が大変だったろう）で盛り、風で倒れないように固化した土で固め、再度砂で根を巻いた。

定植当日は風が強く、根が活着するまで風に負けないでほしい。また、風が強ければ、今後は支持も必要だろうか。また、直根がしっかりと粘土層をうちぬけるか、やや懸念がある。

2 反程度の定植作業、約 30 名で 2 時間程度、3 分の 2 が終了した。昨年よりも、農家の方も慣れて、植え方指導など手際がよかった。

右上：これからも、食を大切に育ててください！
相澤さん

右下：お礼に振る舞われたイチゴ・さちのか（水気を制限した甘さは格別でしたよ）
佐々木さん

午前の名取から、タクシーで移動、閖上、荒浜へと進むと地盤沈下した田が沼のように広がる。水がぬけない、この道も 6m程度嵩上げ工事が国費、県・市費で予定されているようである。復興計画のなかで、この地域は農業特区として 6 次産業化拠点として復興を目指す（5 月 14 日各社報道）。

仙台市荒浜地区

名取と違い、完全に土質は砂。荒浜海岸より 1 キロ未満で、津波で運ばれた海砂が堆積している。

当日は風が強く、砂埃がまっていた。山からの風が強く、マルチシートを固定するのに苦労する。また、マルチシートが薄く、破断しやすく、破れ穴に土をかけて補修した。

アップランドの種を 60 ㎝おきに植えた。20m の畝が 20 程度はあったように思う。砂は表土が乾燥し、さらさらだった。今後は、水まきなど極力控えて自然栽培すると農家は話していた。

岸和田商工会議所の綿スフ部会が種まきの手伝いを行う、人数も約 20 名いたため、手際もよく、畝あげされた畑にマルチシートを張り、マルチの定植場所の穴あけ、種まきと効率的に行えた。今後の生育に期待したい。

左：近藤氏
右：辰巳氏

上：木村氏

（現地レポート・作成：松下）